

議事録

会議名	令和2年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会
実施日時	令和2年8月21日（金） 15:00～16:50
実施場所	加古川市役所 新館 10階 大会議室
出席者	【加古川市スマートシティ推進協議会】 高野委員長 福田副委員長 破魔委員 山本委員（WEB参加） 野方委員 西尾アドバイザー（WEB参加） 川向アドバイザー 中田アドバイザー（WEB参加） 【事務局】 情報政策課 5名

会議の内容

【司 会】事務局

【配付資料】配付資料1：情報通信技術基盤等の利活用に関する推進方針 指標一覧表
配付資料2：加古川市のICTを活用した取り組みについて
配付資料3：加古川市スマートシティ構想骨子案

1 はじめに

2 議事（1）情報通信技術基盤等の利活用に関する推進方針の進捗について

（事務局）

「情報通信技術基盤等の利活用に関する推進方針 指標一覧表」により説明。

（委 員）

市長がG20グローバル・スマートシティ・アライアンス設立会合へ出席していたことを知らない人もたくさんいると思うので、市民へ向けてもっとアピールしてはどうか。

（事務局）

本市の今までの取組みについては、世界や国で評価をいただいている。評価をいただいている点は、見守りカメラの設置について、市民同意を得たことです。今後どこにアピールすればいいのか、委員・アドバイザーの皆さんに意見をいただきたい。

（委 員）

「スマートシティ」を内部に説明することが非常に難しい。

（事務局）

スマートシティの他に、スーパーシティやウーブンシティなど様々出てきている。スマートシティという言葉ではなく、わかりやすく説明できればと考えている。

（委 員）

エンジニアの間で加古川市の給付金システムは話題となっている。Code for

J a p a nの情報交換サイトでも加古川市の給付金システムの中身を見てみたいと言われているが、オープンデータとして公開されていることを知らない人がたくさんいたのは残念である。

アプリについては、こだわる必要はないと思う。行動パターンは年齢層によって変わる。年齢高い人はアプリの方が良い場合もあるが、若い人はあまりアプリを使わない。それぞれに合ったやり方でいいのではないか。

(アドバイザー)

アプリは「市民便利帳」のような形で広報すれば、年齢が高い人にも普及しやすいと思われる。イオンの広告にもアプリの広報が掲載されているが、30代くらいまでの若い方の中には、市役所に関係する手続き等が限られるのでアプリを不要と感じる人もいると思う。

(委員)

かこがわアプリのユーザー登録者数が少し上がっているが、考えられる要因はあるのか。

(事務局)

高齢者大学での説明や、MC I 実証実験で多くの方に説明する機会を設けた結果と考えられる。

3 議事（2）加古川市の ICT を活用した取り組みについて

(事務局)

配付資料「加古川市の ICT を活用した取り組みについて」により説明。
意見については、議事（3）とまとめて行う。

4 議事（3）加古川市スマートシティ構想骨子案について

(事務局)

スマートシティ構想骨子案について説明。

(アドバイザー)

アプリについては、多くの市民が興味を持つコロナを切り口にすることが考えられるが、市民はどのような情報を必要としているのか。また、その情報の開示についての論点は何が考えられるか。

(事務局)

市民は感染者に関する情報が知りたいと考えているはずだが、加古川市は中核市ではないため保健所がなく、県との調整が必要である。また、個人情報も含まれるため情報の発信には細心の注意が必要である。

(アドバイザー)

河川情報の提供についても関心が高いと思う。国・県・市が保有する情報を効率よく一元的に提供するための仕組みづくりが重要。

(事務局)

さまざまなプロジェクトが進行している。外部機関とも連携していく予定。

(アドバイザー)

既に設置された見守りカメラ情報の活用についてはどう進捗しているのか。市民コンセンサスの必要があれば、ブラウフィールド型スマートシティの成功例を出していくべき。

(事務局)

見守りカメラの仕様等については今後検討することになると思うが、その時にブラウフィールド型として実施するかの検討は可能だと考えらる。

(アドバイザー)

市の河川情報だけでなく、県・国の河川情報についても一つのページで確認できるようにすべき。また、気象観測データについても気象庁のデータが公開されているので、市として集約して公開することで避難指示や避難勧告につなげられるのではないかと。

(事務局)

気象情報については、S I P（戦略的イノベーション創造プログラム）の中で取得している。危機管理部門からも一元的に管理できるようにしたいとの要望がある。

(アドバイザー)

8市8町からクローンアプリに関するコメントなどはあるか。

(事務局)

提案した自治体にすでに固有アプリがあるケースなどがある。今年度については、見守り機能のみの提供を検討していきたい。

(委員)

構想をどう市民にアピールするか。また、期間が2026年までとのことだが、短いのではないかと。

(事務局)

骨子作成のために職員向けアンケートを実施したが、行政目線での意見が多く、市民目線での意見が少なかったため、委員・アドバイザーの皆さんからもぜひ意見をいただきたい。

構想期間については、内部でももっと長くてもいいのではという意見があるが、「加古川市総合計画」や「加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に合せて6年としている。

構想については【計画】ではなく【ビジョン】であるため、こういう分野にICTを活用していくというような書き方になるが、未来の加古川像について記載できればと考えている。

具体的な施策については、別途実行計画を策定すべきであると考えている。

パブリックコメントを実施するなど、多くの方からの意見を取得する方法を検討している。

(委員)

クローンアプリについて、オープンソース化しないのか。コロナに関しては、どこの自治体もテイクアウト・デリバリーの情報を提供しているがデータがバラバラである。使いやすいようにAPI化・共通化してほしい。

(アドバイザー)

見守りカメラ設置による効果については、研究室の研究でも明らかになっている。防災についてもいくつかデータが準備できるので、必要であれば言ってほしい。アプリの利用については、災害時の給水所の発信などアプリの利点を活用すべきである。紙だと

配布後の修正はできないが、データはその都度修正できる。今の市役所の仕事はファミレスで、市民は市の作ったメニューの中から何をしたいか決めるような状況である。インフラで情報共有し、ワンストップでできることが理想と考える。チャットボットの活用など、困っている市民を受け止めるための手段を設けてほしい。

(委員)

一般市民からすると、広報等で言葉は知っていたとしてもスマートシティは分かりにくい。

ワークショップを開き市民と一緒に何か（オープンストリートマップなど）を作り上げるなどすれば、広がっていくのではないか。

災害についても、BAN-BANネットワークスは危機管理部門と協力し加古川本流の映像を流している。災害時にはかなりの方が見ており、サーバーが落ちることもある。都市OSにデータを入れることができれば、分散することができると考えられる。

新しいまちづくり懇談会の形などがあれば、これからの加古川像が見えてくるのではないか。

(事務局)

全てを行政でやることは難しいと思う。Code for Harimaの方等と一緒に実施できれば。本日いただいた意見を参考に、加古川市スマートシティの取り組みを進めていきたいと考えている。

5 閉会

(事務局)

次回の協議会は、改めて日程調整を行う予定である。